

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090800048		
法人名	有限会社ごんどう		
事業所名	グループホーム菜の花 1階		
所在地	福岡市東区和白東4丁目6-26		
自己評価作成日	平成25年9月13日	評価結果確定日	平成25年11月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JiyosvoCd=4090800048-00&PrefCd=40&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	福岡市博多区博多駅東2-6-1九勸筑紫通ビル9階		
訪問調査日	平成25年10月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・当施設は、住宅街の中にあり、とても過ごしやすい環境に立地しています。 ・地域住民の方々とふれあいを大切に、運営を行なっています。誕生会時の三味線演奏、踊り、ハーモニカ演奏等、また、年末の餅つき参加などに関わって頂いています。 ・運営推進会議には、消防分団、交番等からもご参加頂き、アドバイスを頂けるようになってきています。 ・職員のスキルアップを目標に研修の機会を多く持つように心がけています。入居者に対する受け持ち制が職員の意識として定着してきました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>社長が地元の方で、地域にもなじみがあり当事業所の認知度及び知名度も高く、さまざまなシーンでの協力が得られやすい形ができています。また、当事業所のすぐそばに社長が運営する『学生マンション』が3棟あり、入居時の契約条件の中に「事業所の非常時、緊急時の協力」を取り決めていること等、他の事業所にはみられない“地域密着型介護施設”としての大きな要件を備えている。</p> <p>利用者の各居室出入口に、利用者の大きな写真と受け持ち担当者の写真が貼られ、在室有無の表示もあり職員の受け持ち意識を高めるとともに、家族に対して『安心』への配慮がなされている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で皆とともに自分らしく、のんびりゆったり楽しく暮らしますを理念に毎朝朝礼時に唱和し、管理者と職員は可能な限り地域の中で暮らしていけるように、その意義を確認し、日々の実践に取り組んでいる。	起床、朝食、就寝などの時間帯は利用者の自由意志に任せるなど、当事業所の理念を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアや民生委員の方々には、敬老会、誕生会、に来て頂き、三味線、子供たちの踊りを拝見させて頂き、共存関係を築いています。餅つき、消防訓練にもご協力頂いています。	地域住民の訪問や、近所を散歩する際に、町内の方から挨拶を受けている。またお土産に自家栽培の花を頂いたり、地域文化祭などに参加することで交流を深め、認知度も高まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターと協力し、介護保険相談に応じている。 ・「こども110番」に登録参加 ・通学路に面した花壇活用による地域見守り ・消防署と連携して「防火の話」、消火訓練への参加呼びかけを行っている。 		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・地域住民代表、消防関係者、家族の方々に参加頂き、利用者の状況、サービス改善への取り組み、入退居者の報告、入居待機者報告、監査改善結果報告、職員の教育研修報告を行い、意見を聞きながら、サービス向上に活かしている。	本年8月の運営推進会議に所轄交番警察官の出席が実現した。会議の席上「利用者が施設からいなくなる等の事態が発生したときのために、利用者には名前よりまず『連絡先』が分かるものを携帯しておいてほしい」との話が警察官よりあり、今後の大事な取り組みの一つとして非常に参考になったとのこと。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	福岡市介護サービス課、地域包括支援センターと密接に報告、連絡、相談を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。	特に『病院の地域連携室』『地域包括支援センター』との協力関係がスムーズに行われており事業所の現状説明、利用者情報の提供、入居利用者の紹介など、コミュニケーションが密にとっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体の拘束は、その必要性が生じたとき、規程に基づくが、これまで身体拘束の実績はない。	職員が、各自持ち場から利用者に声掛けなどを行いながらフロア全体を見守り、利用者が自由に出入りできるよう仕組みが出来ている。また、おちつきがなく不穏な利用者には、ベランダにベンチを置き外の雰囲気を味わいながら茶話などでくつろいで頂いたり、散歩で気分転換を促している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修において「身体拘束ゼロ」を含めた虐待防止研修を行い、虐待が見過ごされないよう防止に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護事業や成年後見制度を利用している人が1名居るので、福岡市介護保険事業者研修への参加を経て、学ぶ機会を持ち、活用している。後見人とは、連絡を密にしている。	被成年後見人である利用者を通じ、制度の必要性を認識し、研修に参加することで理解を深めている。今後も必要性が生じれば活用できるよう支援していきたいと積極的な考えである。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際、利用者や家族等の不安がないよう、十分な時間を設けて説明を行い、希望者には、体験利用も行ったうえで納得頂き、契約するよう努めている。また、解約の際は、解約後の居宅、施設系サービスの利用に関係した相談援助を行い、退居後の生活が不安がないよう援助している。改定の際は、運営推進会議で説明、家族への文書での説明など、ご理解頂いた上で実施している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム受付カウンターに「気づき箱」を設置し、意見、不満、苦情を投函できる仕組みを作っている。また、家族の面会が多いので、直接気付いたことがあれば意見を頂くよう、常に声かけを行っている。また、利用者の声を反映したレクレーションの実施にも力を入れている。	最近、家族は『気づき箱』への投函よりも、面会時に直接職員との面談で希望や意見を述べるが多くなっている。それは各居室出入口に貼っている受け持ち担当者の写真があることで、家族から直に生の声を聞くことが出来るようになってきている。このことは利用者、家族との良好な信頼関係(ラポール)が築かれてきている証でもある。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見、提案は、朝礼時や直接口頭で受けたり、申し送りノートで共有することで運営に反映できるよう努めている。	職員からの意見、提案を話し易い環境づくりを管理者が積極的につくっていて、それを事業所運営に反映していくことで職員の『やる気』『前向き』な姿勢につながっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスの要件に沿って、研修会参加、資格取得を奨励し、やりがいなど向上心を持って働けるよう努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している。	職員の募集、採用にあたっては、性別や年齢などを理由に採用対象から排除せず、採用を行っている。また、スキルと適正にあわせて配置を検討し、各自が成長しながら仕事ができ、サービスの向上につながるよう配慮している。	当事業所では採用時に一番大切にしていることは本人の『前向きさ』と『やる気』という積極性を重視している。年齢も20～70歳代と男女共幅広い年代の職員が勤務している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	虐待防止委員会を設置し、研修会に参加している。ポスターを掲示するなど、昨今の人権教育の必要性を社員に教育、啓発活動に取り組んでいる。	『権利擁護』の理解を深めるため、研修会などには積極的に参加している。また、地域包括支援センター職員から聴講する機会も設けている。	前回の目標達成計画で『虐待防止委員会』規定、組織作りは達成できているが、今後、より具体的に活用していけるような取り組みを期待したい。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の配置にあたっては、スキルと適正にあわせて配置を検討し、各自が成長しながら仕事ができ、サービスの向上につながるよう配慮している。また、資格の取得や外部研修受講の機会を可能な限り設定している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	常時同業者と意見交換をしているが、管理者サイドでの交流に留まっている状態にある。職員間で機会が持てるよう検討したい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至るまでの本人の困っている事、将来への不安、疑問解消には時間を費やし、利用開始までには、何度も面談し、納得してサービスの利用開始(入居)となるよう努力している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に至るまでの家族の困っている事、将来への不安、疑問解消には時間を費やし、利用開始までには、何度も面談し、納得してサービスの利用開始(入居)となるよう努力している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、入居に関する相談のみならず「その時」まず何が必要なのかアドバイスを含め、包括支援センター等を介し介護保険申請等の支援、事業者情報の提示、医療機関の紹介等、状況にあったサービスの利用、選択ができるよう支援している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	若いスタッフ、男性スタッフもあり、未熟なものも多い。そんな時、調理の仕方を教わったり、野菜作りを一緒にしたり、洗濯物をたたんだり、手伝って頂きながらお互いに感謝し合える関係を意識して築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事は、運営推進会議の日に合わせ、家族の参加を促し、共に大切な時間を過ごすべく工夫している。また、日常生活の中では、散歩や食事の見守りなどに加え、無理のない範囲で、体調不良時の見守りを一緒に参加頂く等、利用者が安心できる配慮と共に家族にも一緒に本人を支えていく関係を継続していただいている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居する前の自宅がある地域の民生委員の方や、友人の来所、友人との食事会等、関係継続の支援を行っている。また、可能な限り、自宅への帰宅、外泊支援を勧めている。	自宅に帰れない利用者には家族の声(電話)の便りを利用したり、家族の様子を職員から知らせるなどを実践している。また、家族や入居前の親しい人々との『絆』が途切れないよう利用者の近況を定期的に伝えている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係は重視し、お互いに支えあえるよう信頼関係の構築や、助け合える場面の設定を心がけている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用解約後も、気軽に相談ができるよう声かけし、時には、電話で近況を確認したり、相談に応じる体制に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりの思いや、生活の送りかたなど、本人の意向を大事にし、無理のない生活の支援、心地よい生活の支援を行っている。	契約時のアセスメントを詳しく行い、利用者の日ごろの暮らしぶり、趣味、嗜好など情報収集を丁寧にする事で、それを充分反映させ入居生活を心安らかに送ることが出来るよう支援している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人からのヒヤリングを中心として、家族からもできるだけたくさん話を聞けるよう、機会を設け、「大事にしてきた事」「輝いていたあの頃」の話を聴いたり、生活歴の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	徐々に認知症の進行もみられ、心身状態の変化が著しい方もいます。その時々で、有する能力と感情の安定を見計らって、日々の暮らしに無理なく楽しく過ごせるよう支援している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成にあたっては、本人の状況、希望と家族の意向、職員からの提案等を受けて、それぞれの意見を反映したものになるよう心がけている。	日頃一番接触が多い(深い)職員からの意見、提案も重視するとともに、家族の意見、希望を取り入れ利用者本位にプランニングを行い、家族にも納得できるよう説明している。また入居直後は安定するまで長くても2ヶ月サイクルでケアプランの見直しを行っている。	『センター方式』を研究中とのことであるが、当事業所に適応した独自のアセスメント様式の早期確立を期待したい。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、心身の状態の記録はもちろん、情報の共有が円滑に行われるよう工夫し、ケアプランの見直し、ケアの実践に活かせるようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護から看護へ、その見極めの重要性から、看護師3名、准看護師2名を置き、柔軟な対応ができるように努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族や地域(近所の老人)、民生委員、子供会に参加していただける行事は、積極的に呼びかけし、消防署や地域の消防団員には、消火訓練時に指導いただくなど地域資源の活用を行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族などの希望や意向を反映し、かかりつけ医から適切な医療を受けられるよう支援を行っている。	利用者及び家族の希望を受け入れているが、指定医が遠隔地で診療が困難なときは、丁寧に説明し納得してもらった上で、申し送りを確実にいり地元提携医院に変更してもらっている。当事業所は2院と提携している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションたちばなと委託契約を結び、定期的な訪問を実施している。訪問する看護師は、利用者となじみの関係を構築する為、極力固定の看護師を派遣していただくよう依頼し、利用者に対するホーム職員の相談にも乗っていただきながら、日々の健康管理、リスク回避、医療活用を行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急搬送時や、状態悪化の際は、かかりつけ医に相談し、なじみの主治医や看護師が勤務する病院に入院することで安心して治療を受けられる体制をとっている。また、極力早期に退院できるよう、委託訪問介護ステーションとも連携して、ホームで点滴を受けたり、看護を受けられる体制を整えている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及び見取りに関する指針を策定し、本人及び家族に同意をとり、終末期の希望に関する意向を確認し、担当訪問看護師とも情報を共有している。	説明を『契約時』及び『利用者の状態変化に応じ』丁寧に行っているが、まだ『看取り』の事例はない。今後発生する事柄なので、利用者及び家族が“安心できる対応”が充分に行えるように整備中である。	看護師、准看護師が5名配置されている強みを活かし、利用者、家族から期待される『看取り』の体制作りを早い段階で整え、職員のスキル研修等も積極的に進めていってほしい。
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師を採用し、柔軟な対応ができるように努めている。管理者、ケアマネは看護師が行っているため、職員の指導にあたり、実践力を身につけるべく訓練している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間に戸外にでる方法は、日頃の活動で身につけていると予測するが、夜間の避難方法については、訓練を実施。自治会や地域の代表者、隣近所に住む地域の方々には、日頃より利用者の特性を理解していただき、非常時に協力いただけるよう働きかけている。また、避難訓練にも参加いただいている。	夜間設定時の訓練も行っている。そして、地域住民の参加も得られ協力してもらえる体制も出来ている。さらに、当法人が運営するアパートに居住している学生にも入居契約条件の一つとして非常時の協力を取り決めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりを大事に言葉かけや対応を行っている。また個人情報の取り扱いにも留意している。	一人を好む利用者、皆と一緒に過ごしたい利用者などへ、それぞれが自由に過ごせるよう無理強いはいはしない。見守りながらそれぞれ常に“その気”にさせる言葉掛けを心がけている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望に沿った生活ができるよう、自己決定の機会を多く提供できるように努めている。希望に沿えない場合は、楽しみを見つけ出したり、思い出していただくことで、納得しながら生活できるよう工夫している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まったりおりのスケジュールはたてられないこともあり、1人ひとりのその日のペースは、個別に組み立てるようにしている。利用者主体の暮らしを考えている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族同伴であれば問題ないが、ホームの職員が同行して希望の理美容院に出かける事は困難なので、2カ月に一度訪問理美容を行っている。せめて、身だしなみやおしゃれのタイミングに関しては、本人が希望する時に行けるよう支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事の準備以外にも、レクリエーション委員のもとで、お花見、ドライブ、誕生日会など多くの企画をとおして、お弁当、おやつを、職員と一緒に準備、食事、片付けを行っている。年末恒例餅つきは、地域の方や子供たちとの、交流の場になっている。	敷地内の畑で利用者、職員とともに作った野菜を日々の食材に使うことで、食事の楽しみが増している。後片付けの時には、利用者自ら台所に入り職員と共に食器を洗っている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取量の把握に努め、栄養バランスについては、外注によるカロリー管理を組み込み、脱水症を防ぐための水分確保のための習慣づけ、サービスの提供、また個別の工夫を取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持だけでなく、誤嚥性肺炎のリスクが高い利用者も多いことから、毎食後の口腔ケアに注力すると共に、歯科医による「お口の健康診断」や必要に応じて、磨き方の指導や治療ができるような支援を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄の間隔パターンを把握し、トイレ誘導を行うことで、排泄の失敗を少なくするよう心がけている。また、入居者個々の持てる能力を見極め、スタッフが統一した働きかけを行うことで排泄の自立を促す取り組みを行なっている。	個別の排泄パターン及び水分摂取量のチェックを実施して、排泄介助を確実に行うことにより“トイレでの排泄”が出来るようになり紙パンツ不要になった利用者もおり、個別対応の効果が現れている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は、便秘がちな利用者の排便チェックを行ないながら、予防と対応のための飲食物の工夫を行ったり、身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	重度の利用者においては、比較的職員体制の整った曜日、時間帯に入浴介助を行なっているが、軽度の利用者に関しては、毎日入浴したり、習慣づけと楽しみを持てるよう支援している。	特に拒否が強い利用者には居室に『入浴実施マーク表』を設置して「入浴したくなる」気持ちを無理なく高めるための促しを行うなど、個別に自然と“その気”になるよう気配り、心配りで支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	決まった消灯時間を設けることなく、他の利用者に迷惑をかけない程度で夜間のテレビを楽しんだり、日中も本人の希望により、横になって、昼寝をしたりできるようにしている。また、不眠な状況であれば、安心して眠れるよう工夫をしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、1人ひとりの利用者が服薬している薬が、何を改善するための薬であるか情報を共有したり、用法、用量について申し送りを通じて確認を行うと共に、必要に応じて主治医へ報告、相談できるようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の残存能力と意思に沿って、自分でできることや役割をもって生活を送ることの支援、利用者の提案によって外出できる機会を提供できるよう支援している。レクリエーション委員も、楽しみや気分転換を図れるような活動を計画し、行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の個々の希望に沿って、戸外への外出支援を行なっている。また、事業所の中にばかりいる事を希望する利用者には、都度、声かけし、短時間でも戸外での日光浴や気分転換を図るよう働きかけている。	当事業所から離れたショッピングセンターなど、利用者の希望により、比較的個別対応が必要な場所への外出にも職員配置が可能な限り対応できている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常生活に必要な物品の買い物支援では、個人のお金を所持して管理したり、移動販売の際に個人の意思で使えるよう支援している。本人の申し出により、家族からお金をもらった際には、なくす前に預かるが、納得いくまで一時的に持っておくなどの支援も行なっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話支援はもちろん、年賀状を書く支援等も行なっている。また、本人が精神的に不安定な状況の際などは、家族の声を聞くことで安心できるよう支援を行なっている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは、季節の花々や、利用者による共同制作の作品や、行事での写真を掲示し、生活感や季節感をとり入れている。	出入り口付近の壁には利用者の共同制作の貼り絵、誕生会やお花見の写真、通路には鉢植えなどが設置され環境は良い。テイルームでは各利用者の座る場所が自然と決まっています。職員が目配り、気配りしながら見守り、居心地よく過ごさせている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの中で、独りになることはほとんどない。だが、思い思いに自分の気に入った居場所を確保できるよう工夫したり、家族と一緒に過ごしたり、仲の良い利用者同士で過ごせるよう工夫をしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者個人の居室は、利用者本人の状態をみながら、家族と相談し、可能な範囲で危険がない馴染みの家具を持ち込んでいただくことで、本人が居心地良く過ごせるような働きかけを行なっている。	各居室の入口には利用者の大きな写真が飾られ、利用者が「自分の部屋」だとすぐにわかるようになっている。居室には、今まで使っていた鏡台や、大好きな犬の写真等を飾り『自分の部屋』として落ち着いて過ごせるようレイアウトされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの理解力や記憶障害の程度も様々であるが、可能な限り混乱や不穏が最低限収まるよう、穏やかに過ごせるよう工夫したケアを提供している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090800048		
法人名	有限会社ごんどう		
事業所名	グループホーム菜の花 2階		
所在地	福岡市東区和白東4丁目6-26		
自己評価作成日	平成25年9月13日	評価結果確定日	平成25年11月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JiyosvoCd=4090800048-00&PrefCd=40&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	福岡市博多区博多駅東2-6-1九勸筑紫通ビル9階		
訪問調査日	平成25年10月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・当施設は、住宅街の中にあり、とても過ごしやすい環境に立地しています。 ・地域住民の方々とふれあいを大切に、運営を行なっています。誕生会時の三味線演奏、踊り、ハーモニカ演奏等、また、年末の餅つき参加などに関わって頂いています。 ・運営推進会議には、消防分団、交番等からもご参加頂き、アドバイスを頂けるようになってきています。 ・職員のスキルアップを目標に研修の機会を多く持つように心がけています。入居者に対する受け持ち制が職員の意識として定着してきました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>社長が地元の方で、地域にもなじみがあり当事業所の認知度及び知名度も高く、さまざまなシーンでの協力が得られやすい形ができています。また、当事業所のすぐそばに社長が運営する『学生マンション』が3棟あり、入居時の契約条件の中に「事業所の非常時、緊急時の協力」を取り決めていること等、他の事業所にはみられない“地域密着型介護施設”としての大きな要件を備えている。</p> <p>利用者の各居室出入口に、利用者の大きな写真と受け持ち担当者の写真が貼られ、在室有無の表示もあり職員の受け持ち意識を高めるとともに、家族に対して『安心』への配慮がなされている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で皆とともに自分らしく、のんびりゆったり楽しく暮らしますを理念に毎朝朝礼時に唱和し、管理者と職員は可能な限り地域の中で暮らしていけるように、その意義を確認し、日々の実践に取り組んでいる。	起床、朝食、就寝などの時間帯は利用者の自由意志に任せるなど、当事業所の理念を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアや民生委員の方々には、敬老会、誕生会、に来て頂き、三味線、子供たちの踊りを拝見させて頂き、共存関係を築いています。餅つき、消防訓練にもご協力頂いています。	地域住民の訪問や、近所を散歩する際に、町内の方から挨拶を受けている。またお土産に自家栽培の花を頂いたり、地域文化祭などに参加することで交流を深め、認知度も高まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターと協力し、介護保険相談に応じている。 ・「こども110番」に登録参加 ・通学路に面した花壇活用による地域見守り ・消防署と連携して「防火の話」、消火訓練への参加呼びかけを行っている。 		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・地域住民代表、消防関係者、家族の方々に参加頂き、利用者の状況、サービス改善への取り組み、入退居者の報告、入居待機者報告、監査改善結果報告、職員の教育研修報告を行い、意見を聞きながら、サービス向上に活かしている。	本年8月の運営推進会議に所轄交番警察官の出席が実現した。会議の席上「利用者が施設からいなくなる等の事態が発生したときのために、利用者には名前よりまず『連絡先』が分かるものを携帯しておいてほしい」との話が警察官よりあり、今後の大事な取り組みの一つとして非常に参考になったとのこと。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	福岡市介護サービス課、地域包括支援センターと密接に報告、連絡、相談を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。	特に『病院の地域連携室』『地域包括支援センター』との協力関係がスムーズに行われており事業所の現状説明、利用者情報の提供、入居利用者の紹介など、コミュニケーションが密にとっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、その必要性が生じたとき、規程に基づくが、これまで身体拘束の実績はない。	職員が、各自持ち場から利用者に声掛けなどを行いながらフロア全体を見守り、利用者が自由に出入りできるよう仕組みが出来ている。また、おちつきがなく不穏な利用者には、ベランダにベンチを置き外の雰囲気を味わいながら茶話などでくつろいで頂いたり、散歩で気分転換を促している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修において「身体拘束ゼロ」を含めた虐待防止研修を行い、虐待が見過ごされないよう防止に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護事業や成年後見制度を利用している人が1名居るので、福岡市介護保険事業者研修への参加を経て、学ぶ機会を持ち、活用している。後見人とは、連絡を密にしている。	被成年後見人である利用者を通じ、制度の必要性を認識し、研修に参加することで理解を深めている。今後も必要性が生じれば活用できるよう支援していきたいと積極的な考えである。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際、利用者や家族等の不安がないよう、十分な時間を設けて説明を行い、希望者には、体験利用も行ったうえで納得頂き、契約するよう努めている。また、解約の際は、解約後の居宅、施設系サービスの利用に関係した相談援助を行い、退居後の生活が不安がないよう援助している。改定の際は、運営推進会議で説明、家族への文書での説明など、ご理解頂いた上で実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム受付カウンターに「気づき箱」を設置し、意見、不満、苦情を投函できる仕組みを作っている。また、家族の面会が多いので、直接気付いたことがあれば意見を頂くよう、常に声かけを行っている。また、利用者の声を反映したレクレーションの実施にも力を入れている。	最近、家族は『気づき箱』への投函よりも、面会時に直接職員との面談で希望や意見を述べるが多くなっている。それは各居室出入口に貼っている受け持ち担当者の写真があることで、家族から直に生の声を聞くことが出来るようになってきている。このことは利用者、家族との良好な信頼関係(ラポール)が築かれてきている証でもある。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見、提案は、朝礼時や直接口頭で受けたり、申し送りノートで共有することで運営に反映できるよう努めている。	職員からの意見、提案を話し易い環境づくりを管理者が積極的につくっていて、それを事業所運営に反映していくことで職員の『やる気』『前向き』な姿勢につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスの要件に沿って、研修会参加、資格取得を奨励し、やりがいなど向上心を持って働けるよう努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している。	職員の募集、採用にあたっては、性別や年齢などを理由に採用対象から排除せず、採用を行っている。また、スキルと適正にあわせて配置を検討し、各自が成長しながら仕事ができ、サービスの向上につながるよう配慮している。	当事業所では採用時に一番大切にしていることは本人の『前向きさ』と『やる気』という積極性を重視している。年齢も20～70歳代と男女共幅広い年代の職員が勤務している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	虐待防止委員会を設置し、研修会に参加している。ポスターを掲示するなど、昨今の人権教育の必要性を社員に教育、啓発活動に取り組んでいる。	『権利擁護』の理解を深めるため、研修会などには積極的に参加している。また、地域包括支援センター職員から聴講する機会も設けている。	前回の目標達成計画で『虐待防止委員会』規定、組織作りは達成できているが、今後、より具体的に活用していただけるような取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の配置にあたっては、スキルと適正にあわせて配置を検討し、各自が成長しながら仕事ができ、サービスの向上につながるよう配慮している。また、資格の取得や外部研修受講の機会を可能な限り設定している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	常時同業者と意見交換をしているが、管理者サイドでの交流に留まっている状態にある。職員間で機会が持てるよう検討したい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至るまでの本人の困っている事、将来への不安、疑問解消には時間を費やし、利用開始までには、何度も面談し、納得してサービスの利用開始(入居)となるよう努力している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に至るまでの家族の困っている事、将来への不安、疑問解消には時間を費やし、利用開始までには、何度も面談し、納得してサービスの利用開始(入居)となるよう努力している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、入居に関する相談のみならず「その時」まず何が必要なのかアドバイスを含め、包括支援センター等を介し介護保険申請等の支援、事業者情報の提示、医療機関の紹介等、状況にあったサービスの利用、選択ができるよう支援している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	若いスタッフ、男性スタッフもおり、未熟なものも多い。そんな時、調理の仕方を教わったり、野菜作りを一緒にしたり、洗濯物をたたんだり、手伝って頂きながらお互いに感謝し合える関係を意識して築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事は、運営推進会議の日に合わせ、家族の参加を促し、共に大切な時間を過ごすべく工夫している。また、日常生活の中では、散歩や食事の見守りなどに加え、無理のない範囲で、体調不良時の見守りを一緒に参加頂く等、利用者が安心できる配慮と共に家族にも一緒に本人を支えていく関係を継続していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居する前の自宅がある地域の民生委員の方や、友人の来所、友人との食事会等、関係継続の支援を行っている。また、可能な限り、自宅への帰宅、外泊支援を勧めている。	自宅に帰れない利用者には家族の声(電話)の便りを利用したり、家族の様子を職員から知らせるなどを実践している。また、家族や入居前の親しい人々との『絆』が途切れないよう利用者の近況を定期的に伝えている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係は重視し、お互いに支えあえるよう信頼関係の構築や、助け合える場面の設定を心がけている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用解約後も、気軽に相談ができるよう声かけし、時には、電話で近況を確認したり、相談に応じる体制に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりの思いや、生活の送りかたなど、本人の意向を大事にし、無理のない生活の支援、心地よい生活の支援を行っている。	契約時のアセスメントを詳しく行い、利用者の日ごろの暮らしぶり、趣味、嗜好など情報収集を丁寧にする事で、それを充分反映させ入居生活を心安らかに送ることが出来るよう支援している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人からのヒヤリングを中心として、家族からもできるだけたくさん話を聞けるよう、機会を設け、「大事にしてきた事」「輝いていたあの頃」の話を聴いたり、生活歴の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	徐々に認知症の進行もみられ、心身状態の変化が著しい方もいます。その時々で、有する能力と感情の安定を見計らって、日々の暮らしに無理なく楽しく過ごせるよう支援している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成にあたっては、本人の状況、希望と家族の意向、職員からの提案等を受けて、それぞれの意見を反映したものになるよう心がけている。	日頃一番接触が多い(深い)職員からの意見、提案も重視するとともに、家族の意見、希望を取り入れ利用者本位にプランニングを行い、家族にも納得できるよう説明している。また入居直後は安定するまで長くても2ヶ月サイクルでケアプランの見直しを行っている。	『センター方式』を研究中とのことであるが、当事業所に適応した独自のアセスメント様式の早期確立を期待したい。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、心身の状態の記録はもちろん、情報の共有が円滑に行われるよう工夫し、ケアプランの見直し、ケアの実践に活かせるようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護から看護へ、その見極めの重要性から、看護師3名、准看護師2名を置き、柔軟な対応ができるように努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族や地域(近所の老人)、民生委員、子供会に参加していただける行事は、積極的に呼びかけし、消防署や地域の消防団員には、消火訓練時に指導いただくなど地域資源の活用を行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族などの希望や意向を反映し、かかりつけ医から適切な医療を受けられるよう支援を行っている。	利用者及び家族の希望を受け入れているが、指定医が遠隔地で診療が困難なときは、丁寧に説明し納得してもらった上で、申し送りを確実にいり地元提携医院に変更してもらっている。当事業所は2院と提携している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションたちばなと委託契約を結び、定期的な訪問を実施している。訪問する看護師は、利用者となじみの関係を構築する為、極力固定の看護師を派遣していただくよう依頼し、利用者に対するホーム職員の相談にも乗っていただきながら、日々の健康管理、リスク回避、医療活用を行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急搬送時や、状態悪化の際は、かかりつけ医に相談し、なじみの主治医や看護師が勤務する病院に入院することで安心して治療を受けられる体制をとっている。また、極力早期に退院できるよう、委託訪問介護ステーションとも連携して、ホームで点滴を受けたり、看護を受けられる体制を整えている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及び見取りに関する指針を策定し、本人及び家族に同意をとり、終末期の希望に関する意向を確認し、担当訪問看護師とも情報を共有している。	説明を『契約時』及び『利用者の状態変化に応じ』丁寧に行っているが、まだ『看取り』の事例はない。今後発生する事柄なので、利用者及び家族が“安心できる対応”が充分に行えるように整備中である。	看護師、准看護師が5名配置されている強みを活かし、利用者、家族から期待される『看取り』の体制作りを早い段階で整え、職員のスキル研修等も積極的に進めていってほしい。
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師を採用し、柔軟な対応ができるように努めている。管理者、ケアマネは看護師が行っているため、職員の指導にあたり、実践力を身につけるべく訓練している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間に戸外にでる方法は、日頃の活動で身につけていると予測するが、夜間の避難方法については、訓練を実施。自治会や地域の代表者、隣近所に住む地域の方々には、日頃より利用者の特性を理解していただき、非常時に協力いただけるよう働きかけている。また、避難訓練にも参加いただいている。	夜間設定時の訓練も行っている。そして、地域住民の参加も得られ協力してもらえる体制も出来ている。さらに、当法人が運営するアパートに居住している学生にも入居契約条件の一つとして非常時の協力を取り決めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりを大事に言葉かけや対応を行っている。また個人情報の取り扱いにも留意している。	一人を好む利用者、皆と一緒に過ごしたい利用者などへ、それぞれが自由に過ごせるよう無理強いはいはしない。見守りながらそれぞれ常に“その気”にさせる言葉掛けを心がけている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望に沿った生活ができるよう、自己決定の機会を多く提供できるように努めている。希望に沿えない場合は、楽しみを見つけ出したり、思い出していただくことで、納得しながら生活できるよう工夫している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まったとおりのスケジュールはたてられないこともあり、1人ひとりのその日のペースは、個別に組み立てるようにしている。利用者主体の暮らしを考えている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族同伴であれば問題ないが、ホームの職員が同行して希望の理美容院に出かける事は困難なので、2カ月に一度訪問理美容を行っている。せめて、身だしなみやおしゃれのタイミングに関しては、本人が希望する時に行けるよう支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事の準備以外にも、レクリエーション委員のもとお花見、ドライブ、誕生日会など多くの企画をとおして、お弁当、おやつを、職員と一緒に準備、食事、片付けを行っている。年末恒例餅つきは、地域の方や子供たちとの、交流の場になっている。	敷地内の畑で利用者、職員とともに作った野菜を日々の食材に使うことで、食事の楽しみが増している。後片付けの時には、利用者自ら台所に入り職員と共に食器を洗っている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取量の把握に努め、栄養バランスについては、外注によるカロリー管理を組み込み、脱水症を防ぐための水分確保のための習慣づけ、サービスの提供、また個別の工夫を取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持だけでなく、誤嚥性肺炎のリスクが高い利用者も多いことから、毎食後の口腔ケアに注力すると共に、歯科医による「お口の健康診断」や必要に応じて、磨き方の指導や治療ができるような支援を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄の間隔パターンを把握し、トイレ誘導を行うことで、排泄の失敗を少なくするよう心がけている。また、入居者個々の持てる能力を見極め、スタッフが統一した働きかけを行うことで排泄の自立を促す取り組みを行なっている。	個別の排泄パターン及び水分摂取量のチェックを実施して、排泄介助を確実に行うことにより「トイレでの排泄」が出来るようになり紙パンツ不要になった利用者もおり、個別対応の効果が現れている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は、便秘がちな利用者の排便チェックを行ないながら、予防と対応のための飲食物の工夫を行ったり、身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	重度の利用者においては、比較的職員体制の整った曜日、時間帯に入浴介助を行なっているが、軽度の利用者に関しては、毎日入浴したり、習慣づけと楽しみを持てるよう支援している。	特に拒否が強い利用者には居室に『入浴実施マーク表』を設置して「入浴したくなる」気持ちを無理なく高めるための促しを行うなど、個別に自然と“その気”になるよう気配り、心配りで支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	決まった消灯時間を設けることなく、他の利用者に迷惑をかけない程度で夜間のテレビを楽しんだり、日中も本人の希望により、横になって、昼寝をしたりできるようにしている。また、不眠な状況であれば、安心して眠れるよう工夫をしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、1人ひとりの利用者が服薬している薬が、何を改善するための薬であるか情報を共有したり、用法、用量について申し送りを通じて確認を行うと共に、必要に応じて主治医へ報告、相談できるようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の残存能力と意思に沿って、自分でできることや役割をもって生活を送ることの支援、利用者の提案によって外出できる機会を提供できるよう支援している。レクリエーション委員も、楽しみや気分転換を図れるような活動を計画し、行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の個々の希望に沿って、戸外への外出支援を行なっている。また、事業所の中にばかりいる事を希望する利用者には、都度、声かけし、短時間でも戸外での日光浴や気分転換を図るよう働きかけている。	当事業所から離れたショッピングセンターなど、利用者の希望により、比較的個別対応が必要な場所への外出にも職員配置が可能な限り対応できている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常生活に必要な物品の買い物支援では、個人のお金を所持して管理したり、移動販売の際に個人の意思で使えるよう支援している。本人の申し出により、家族からお金をもらった際には、なくす前に預かるが、納得いくまで一時的に持っておくなどの支援も行なっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話支援はもちろん、年賀状を書く支援等も行なっている。また、本人が精神的に不安定な状況の際などは、家族の声を聞くことで安心できるよう支援を行なっている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは、季節の花々や、利用者による共同制作の作品や、行事での写真を掲示し、生活感や季節感をとり入れている。	出入り口付近の壁には利用者の共同制作の貼り絵、誕生会やお花見の写真、通路には鉢植えなどが設置され環境は良い。テイルームでは各利用者の座る場所が自然と決まっています。職員が目配り、気配りしながら見守り、居心地よく過ごさせている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの中で、独りになることはほとんどない。だが、思い思いに自分の気に入った居場所を確保できるよう工夫したり、家族と一緒に過ごしたり、仲の良い利用者同士で過ごせるよう工夫をしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者個人の居室は、利用者本人の状態をみながら、家族と相談し、可能な範囲で危険がない馴染みの家具を持ち込んでいただくことで、本人が居心地良く過ごせるような働きかけを行なっている。	各居室の入口には利用者の大きな写真が飾られ、利用者が「自分の部屋」だとすぐにわかるようになっている。居室内には、今まで使っていた鏡台や、大好きな犬の写真等を飾り『自分の部屋』として落ち着いて過ごせるようレイアウトされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの理解力や記憶障害の程度も様々であるが、可能な限り混乱や不穏が最低限収まるよう、穏やかに過ごせるよう工夫したケアを提供している。		